

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2023 年 9 月 新刊のご案内

東洋思想 ご担当者さま

井筒俊彦 起源の哲学

近代日本解釈学の系譜（仮）

安藤礼二（文芸評論家、多摩美術大学教授）[著]

四六判上製／320 頁 税込予価 2,750 円 ISBN978-4-7664-2842-1 C0010

👉 ココに注目！

- ・井筒俊彦の知られざる生涯をひも解く。
- ・折口信夫、鈴木大拙から井筒へと継承された、新たな近代日本思想史を鮮やかに活写する！

井筒俊彦の生涯と思想は、近代日本の勃興と挫折、そして再生と重なり合う——。本書では、クルアーンなどの世界古典だけでなく、日本古典も射程に入れ、井筒哲学の全体像に迫っていく。さらに、欧文著作の翻訳も視野に入れることで、これまで論じられていなかった初期の井筒思想（ギリシャ哲学・言語論）と後期の井筒思想（東洋哲学、とくに仏教論）の繋がりを明らかにする。

対象 一般（井筒作品の読者、安藤作品の読者）

類書 西平直『井筒俊彦と二重の見』（ふねうま舎）

【営業部からのおすすめポイント】

2023 年は、井筒俊彦の没後 30 年になります。弊社はこれまで、全集や英文著作翻訳コレクションなど、井筒関連の作品を断続的に刊行してきましたが、新たな切り口で井筒の思想世界を描き出すべく、本書を軸にした記念フェアを企画中です。フェア概要は、来月号に掲載予定ですので、どうぞご期待ください！（中島）

👉 主要目次、注文書、関連既刊を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次と内容説明】

はじめに

I 二つの原点——父、西脇、折口

父と母について。仏教の影響。「唯一の師」西脇順三郎、もう一人の影の師折口信夫との出会いについて。大川周明との関係、アジア主義とイラン、「言語学概論」の背景。

II 起源の哲学——光のディオニュソスの思想史

仏教からの解放と、ギリシャ哲学との邂逅。井筒のもう一つの原点である『神秘哲学』（1949）を取り上げる。

III 預言者の系譜——哲学的意味論へ

英文著作『言語と呪術』（1956）と『意味の構造』（1959）で、井筒は自分の方法論である「意味論」を開拓しようとした。これまで明確でなかった哲学論と言語論とのつながりを、「意味論」のなかに探る。

IV 存在のファシズム——大東亜共栄圏とイラン革命

大川周明『回教哲学概論』のゴーストライターは井筒俊彦だった。大東亜共栄圏構想の中心人物である大川のイスラームへの関心、パン・イスラーム主義の革命家との出会い、などこれまであやふやにされてきた戦争下の井筒の役割と革命家たちとの関係の解明に迫る。奇しくも井筒はイラン革命の中心にも近づいた人物である。テヘラン脱出前の彼の研究に着目し、その関心を明らかにする。

V 東方の哲学

幼少の頃、漢籍仏典を読み込んだ井筒が、ふたたび仏教にむかうのは晩年であった。それまで展開してきた「意味論」を用いて井筒はどのように仏教を論じたのか。井筒は自分の『大乘起信論』読解において、大拙の『起信論』読解、折口の「憑依」の理論化に甚大な影響をうけつつも、彼らを越えようとした。多分野を越えた新たな近代日本思想史の可能性を探る。

VI 哲学から批評へ ^{しのめ}新たな東方の哲学の可能性

井筒のやろうとした東洋哲学とは、現在どのような可能性をもちうるのか。「批評」という分野にまで拡張させて、その可能性にふれる。

結論 空海から井筒へ 解釈学の系譜

あとがき

索引



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			安藤礼二 著 井筒俊彦 起源の哲学 —近代日本解釈学の系譜(仮) I S B N 9 7 8 - 4 - 7 6 6 4 - 2 8 4 2 - 1 C 0 0 1 0	2,750 円	★★★★★ ★★★★

関連既刊（ぜひ併せてご注文ください!）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	若松英輔 著 井筒俊彦—叡知の哲学 I S B N 9 7 8 - 4 - 7 6 6 4 - 1 8 1 1 - 8 C 0 0 1 0	定価(税込)
			発行所：慶應義塾大学出版会	3,740 円